

# 授業改善推進プラン 全体計画

令和2年度 小笠原小学校

- 学習指導要領
- 東京都教育目標
- 小笠原村教育目標

## 学校教育目標 知・徳・体の調和

- 自分を大切にし、思いやりの心をもとう
- 夢や希望を持ち、たえず学び続けよう
- 心と体を鍛え、爽やかな感動を生もう

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

### 【学校経営方針】（授業改善に関わる部分）

- ①確かな学力：知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学習態勢づくりの推進、全児童評価規準到達の推進、授業力の向上
- ②豊かな人間性：道徳教育の充実、規範意識の育成、読書活動の推進
- ③健やかな体・安全：体力向上の取組の推進、オリパラ教育の推進
- ④地域との相互連携：情報発信、教育活動の公開、地域連携

### 各教科の指導の重点

- ・基礎的な学力の充実
- ・自ら課題を設定し解決する能力の育成
- ・系統的な指導と適切な評価の実施
- ・算数少人数指導等、個に応じた指導体制の充実

### 道徳科教育の指導の重点

- ・内省、多様な感じ方・考え方を基にした学び合いによる道徳実践力の育成
- ・道徳授業地区公開講座等を通じた、地域・家庭との連携

### 外国語活動・総合的な学習の時間の指導の重点

- ・外国語活動による国際理解学習
- ・自ら学ぶ意欲や問題解決能力等の育成
- ・地域のよさへの気付き、村民としての自覚醸成
- ・小笠原の伝統や文化にかかわる体験的学習
- ・環境教育の視点から自然を中心とした問題解決学習、SDGs

### 本校の授業改善の重点

本校では、学力テストの分析を基に、今年度、次の項目を重点的に改善する。

- ①主体的に解決できる課題の設定、関心・意欲の向上
- ②思考の広がり・深まりがあるような対話的活動の設定
- ③基礎的・基本的な知識や技能の習得と活用する力

### 特別活動の指導の重点

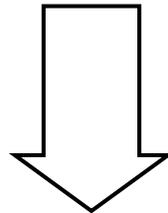
- ・学校行事、学級活動等を通じた話し合い活動の重視
- ・自主的・自発的な実践力や実践的態度の育成
- ・ボランティア活動等の充実

### 生活指導の指導の重点

- ・津波、安全指導、避難訓練、防犯教育、防災教育等の推進・継続的指導
- ・家庭、地域、関係諸機関との連携
- ・SC活用と教育相談機能を生かした指導の充実

### キャリア教育の指導の重点

- ・個性の伸長と主体性の育成（発達段階に応じた選択・決定の指導、自己実現）
- ・特別支援教育コーディネーターの活用と個に応じた指導・支援体制の充実



## 本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価・評定の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な内容の確実な定着に必要な授業時数の確保と余剰時間の活用</li> <li>・国語、算数、外国語活動を中心とした基礎的な学力の定着を図る「スキルタイム」の実施</li> <li>・読解力や豊かな心を育む「朝読書タイム」の実施</li> <li>・長期休業中の「学びの場（基礎・基本の補習）」の開催（今年度は、感染症予防対策のため、休止）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に関連した課題の設定や体験活動の充実により、意欲・関心を持続させる授業展開の工夫</li> <li>・授業・学習環境のユニバーサルデザイン</li> <li>・学習規律、ルール of 全校体制による指導の徹底</li> <li>・発達段階に応じた話し合いの場の工夫</li> <li>・反復学習の充実</li> <li>・各教科の系統を考慮した指導の工夫</li> <li>・獲得した知識・技能を活用する活動の設定</li> <li>・支援員の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の作成・活用、評価規準に基づいた指導計画の作成</li> <li>・週ごとの指導計画を生かした授業改善の視点の明確化</li> <li>・学習カードの活用や観察等による児童の学習状況の把握と個に応じた指導</li> <li>・学習支援の充実と週単位の共通理解と評価</li> <li>・通知表の評価規準の明確化と保護者への説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上のための研究授業、協議会の実施</li> <li>・教員同士が日常的に互いの授業を見合う機会の設定</li> <li>・教員が教科等の専門性を高めるための研修の工夫</li> <li>・学力調査の結果分析、課題把握による授業改善推進プランの作成</li> <li>・島しょ研修会、都教委訪問等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、児童による授業評価の分析</li> <li>・図書ボランティアによる読み聞かせの設定</li> <li>・各教科、領域での地域の施設や講師の活用</li> <li>・学校公開、体育発表会、学習発表会、行事等による学校の教育活動への理解の充実</li> <li>・保護者会等による基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化への協力依頼（調査・分析・公表）</li> </ul>

令和2年度村学力調査の結果を踏まえて、以下の点を全ての教科等における授業改善の視点とする。

<p>「分かる・できるようになる授業」による基礎基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の提示、本時の流れの提示など視覚的にも授業の流れが分かるようにする。</li> <li>・個々の児童の進行状況を確認し、机間指導の時間を設定する。</li> <li>・振り返りの時間を設定し、学習内容の定着状況を把握する。</li> <li>・学習環境を整える。</li> </ul> <p>(教室前面の掲示物の整理、黒板周りの整理、分かりやすい板書、見通しをもたせる配慮、 ルールの徹底、物の位置を決めた整理整頓等)</p>
---

## 1年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○ひらがな・かたかなの習得	○基礎学習時間の確保を図る授業の推進 ・活用場面を国語科以外でも設定し、基礎基本の定着を図る。 ・スキルタイムや家庭学習での継続を促す。 ・音読練習等、家庭との連携をする。	○授業内での活用場面の設定や、スキルタイム、家庭学習のサポートにより、学習時間の確保をすることができた。 △今後も、丁寧なひらがなやかたかなの形の指導が必要である。
算数	○加法・減法の意味理解	○言語の視覚化 ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚化し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。 ・児童の習熟の度合に応じて演習量・難易度を選択できるようにする。	○毎回の振り返りの時間を通して、算数で使う言語を活用することができた。 △言葉の数の多い文章問題では、言葉の取捨選択の必要性を指導する必要がある。
生活	○知識・技能の基礎の定着	○他教科との連携 ・国語科で学習したことを活用する経験を意図的に設定する。モデルとなる言語表現を選択したり、自ら考えたりして表現する。 ・気付きを大切にしたい体験活動を充実を図る。 ・世話を続けることだけでなく、記録し続けることで、変化の違いに気付くようにする。	○生き物の観察では、国語で学習した記録の仕方を活用することができた。 △植物だけでなく、動物の観察記録についても計画する必要がある。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の楽しさを味わいながら歌唱・器楽などの基礎・基本を身に付ける授業推進 ・リトミック（リズム遊びやわらべ歌）を通じて、拍感覚や歌唱を身に付ける。 ・友達との学び合いの中で表現活動の楽しさを味わせる。	○常時活動でリズムを行うことで音楽の基礎を身に付けることができた。 △今後も歌唱や鍵盤ハーモニカ活動が2学期のみだったため、今後は基礎・基本を身に付ける必要がある。
図工	○創造的な技能の向上	○様々な材料や用具を工夫して使える力を身に付けさせる授業推進 ・安全面の指導を必ず行う。 ・様々な材料や用具に使える活動を充実させる。 ・お互いの工夫を共有できるような活動を紹介する。	○材料や友達の作品、道具から豊かに発想や工夫を広げる姿が見られる。 △基礎基本の定着については、個別指導や使用するたびに確認する必要がある。
体育	○学習の規律・基礎基本の定着	○基本的な動きを身に付ける授業の推進 ・いろいろな運動に触れて多様な運動遊びを行う。 ・服装の確認をする。 ・集団行動（前へならえ、やすめ、気をつけ、体操の隊形、体育座り、回れ右等）を取り入れる。	○安全に気を付けながら、いろいろな運動に触れることができた。 △鬼遊びやマット運動、跳び箱運動は、感染症予防の為、時数確保が難しかった。各学習の技能を身に付ける必要がある。

## 2年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○書く能力の向上	○基礎基本を充実させた授業の推進 ・「初め」「中」「終わり」など構成を考えた文章を練習していく。 ・文章を書く機会を増やし充実させていく。	○作文や感想等を書く時や発表する時など「初め」「中」「終わり」の構成をつかい取り組んだことで、段落を意識して書くようになった。 △文章表現力に差があるので、手本となる例をさらに取り上げ、表現力をつけていく必要がある。
算数	○基礎基本の定着	○具体的な場面を取り入れた授業の推進 ・場面や数の意味が具体的にイメージできる場の設定をする。 ・時計、長さ、かさなど学習したことを生活場面で活用する。定着のために、反復練習を取り入れる。	○ICT機器や掲示物を活用することで、具体的な場面がイメージしやすく、課題が把握しやすくなっていた。 △個人で問題を解く時、課題把握に個人差がある。図などを更に活用できる力を身に付けさせる。
生活	○身近な環境についての学びの充実	○様々な活動や体験を確保した授業の推進 ・村探検に行き、村のことを調べたり人々と交流したりする活動、野菜を育てる活動、生き物を探し観察したり、調べたりする活動、身近な材料を使って動くおもちゃを作る活動、これまでの自分の成長を振り返る活動を通して、日常生活や学習上での自立を目指す。 ・動物や植物との関わりを増やすことで自然への興味関心を向上させる。 ・朝の会や帰りの会に動物や学級菜園の情報交換を行うなど日常活動に位置付けていく。	○今年度、コロナ等事情があったが様々な活動や体験をすることができた。村のこと、野菜のこと、清瀬川の生き物のこと、自分の小さかった頃のことなど多くのことが学べた。その中で、これまで知らなかったこと、気付かなかったこと、様々な発見があり、興味関心を向上させることができた。 △今年度は、他学年等への発表、交流の機会が少なかった。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の楽しさを味わいながら歌唱・器楽などの基礎・基本を身に付ける授業の推進 ・リズム遊びや常時活動を通じて、拍感覚や歌唱の基礎基本を定着させる。 ・友達との学び合いの中で表現活動の楽しさを味わせる。	○友達と学び合いの中でリズム活動や合奏を行うことで、主体的に取り組む児童が増えた。 △歌唱や鍵盤ハーモニカ活動は2学期のみのため、基礎・基本を身に付ける必要がある。
図工	○創造的な技能の向上	○様々な材料や用具を工夫して使える力を身に付けさせる授業の推進 ・安全面の指導を必ず行う。 ・様々な材料や用具に使える活動を充実させる。 ・お互いの工夫を共有できるような活動を紹介する。	○活動や作品を紹介することにより、発想や工夫の広がりが見られた。 △基礎基本の定着のため材料や用具の使い方は、使用するたびに確認する必要がある。
体育	○「走る」能力向上	○日常的に走る運動を取り入れる授業の推進 ・準備運動などで走る運動を意図的に取り入れていく。 ・自分の思った通りに体を動かし走力を高められるような様々な動きを取り入れた運動場面を設定する。 ・友達の動きを観察する場面や、模範を示して技術的な指導を行う場面の設定をする。	○日常的に「走る」ことをしてきた。まっすぐ走ったり、横や後ろを向いて走ったり、体を様々な動かすことができた。 △体を思った通りに動かすにはまだ個人差があるので、より多彩な動きを取り入れていく。

3年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○書く能力 ○言語についての基礎的な知識・理解	○言葉や漢字など言語の知識理解の定着を図るためのドリル学習の推進 ・言葉や漢字に関する問題を繰り返し実施する。 ・授業で自分の考えを説明したり書いたりする活動の機会を増やす。作文日記指導を充実させる。 ・個に応じた指導・支援の充実を図る。	○徹底的なドリル学習の効果が見られた。 ○学級全体で自分の考えを相手に伝える機会を増やしたことで積極的に交流参加ができた。 △知識・理解・書く力の向上に個人差がある。日常的に書く活動を取り入れる。
社会	○知識・技能	○「～を調べ、～をまとめ、～を理解している」などに関連付けて学習すること ・小笠原地域特有の知識技能を大切にしながらも、それだけではなく、一般的な社会的事象への興味関心を誘う授業教材の提示をする。	○地図帳を使つての日本、世界の都市や地名、名称などは興味関心が高まった。 △小笠原以外の学習では、映像や具体物を準備し、学習意欲を高める。
算数	○数量や図形についての知識・理解	○図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身に付けさせる授業の推進 ・具体物の操作を通して、図形の構成を感覚的に捉えられるようにする。 ・作図を通して、頂点や角、辺の関係に着目させ、図形の特徴の理解を深められるようにする。	○児童の実態に応じた学級編成が行えたことで、一人一人のアセスメントから指導することができた。 △単元や児童によって理解度の差異が見られる。スキルタイム等で、個別指導を行う。
理科	○思考・判断・表現	○観察、実験などを通して、問題解決の力の定着の推進 ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決する学習の流れを定着させる。	○学習の流れの定着を図ることができ、観察、実験を通して、問題解決する力が向上した。 △発展的な問題や事象に関しては、個別指導が必要である。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進 ・常時活動の中で歌唱・器楽の基礎・基本を繰り返し行い、技能の定着を図る。 ・互いの声を聴き合う中で、自然で無理のない声を出すことの良さを実感させ、二部合唱につなげる。	○合奏を班や学級全体で取り組むことで互いの良さを認め合うことや、振り返りを次の活動に生かす児童が増えた。 △歌唱やリコーダー活動は2学期のみのため、基礎・基本を身に付ける必要がある。
図工	○発想・構想の能力の向上	○造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについての考えることができる授業の推進 ・発想が広がるような様々な参考作品を紹介する。 ・材料や道具などの使い方、工夫できるところを確認する。 ・児童の作品を紹介し、考え方や発想の仕方を共有する。	○材料や道具などの使い方を工夫したり、以前学習したことを生かしたりすることができている。 △発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である。
体育	○思考・判断・表現	○自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えられる活動の推進 ・すべての領域の活動で自己評価と他己評価を行い、課題解決のための工夫や考えをみんなで共有していく。	○ゲーム領域をはじめ、様々な領域の学習において、グループで話し合う力が身に付いてきた。 △課題解決のための方策や工夫を生み出すには、さらに適正なアドバイス、話し合いの継続が必要である。

4年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○書く・読む能力の向上 (漢字・作文)	○言葉の力を身に付け、活用できる授業の推進 ・日記、音読を継続し、漢字を書く、読む、習慣付けをし、語いを使う練習をする。 ・文章を書く機会を増やし、構成を考えた文章の練習をする。	○行事作文や日記などの継続的に取り組み、段落を意識した文章力が高まった。 △語彙力、文章力に関しては、辞書の活用を進める。
社会	○知識・理解の定着	○社会的事象について知識・理解の定着を図る授業の推進 ・基本的な知識を身近な事柄と関連させて興味をもって考え、資料の見方、活用の仕方を習得し、基礎の定着を図る。 ・「自分にできること」という視点での思考、社会参画の意識向上を図る。	○資料の活用の仕方ができるようになった。調べたこと工夫してまとめる力がついた。 △資料の読み取りには個人差があるので、個別指導を行う。
算数	○数量や図形についての技能	○量感を捉えられる授業の推進 ・日常生活での必要性や活用を意識させ、数字や計算で表す良さを実感できるようにする。 ・測定の考えを用い、図形を構成する要素に着目することで、公式の導き出し方を身に付けさせ、問題と向き合ったときに公式を想起できるようにする。	○児童の実態に応じた学級編成が行えたことで、一人一人のアセスメントから指導することができた。 △単元や児童によって理解度の差異が見られる。スキルタイム等で、個別指導を行う。
理科	○自然事象への関心・意欲・態度	○知識を意欲的に獲得し、表現できる授業の推進 ・観察や実験など体験を通して学習の意欲、理解を深める。 ・観察や変化の違いなど見る視点をもたせ、表現する力を伸ばす。	○日常生活の中から、予想をたてたり、キーワードをヒントに考察させたり、自分の考えをまとめる力がついた。 △予想の理由を具体的に書く力に個人差がある。フローチャートを提示する。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進 ・常時活動の中で、歌唱・器楽の基礎・基本を繰り返し行い、技能の定着を図る。 ・互いの声や音を聴き合う中で、一人では表現できない合唱・合奏の良さを味わせ、主体的な活動につなげる。	○自然で無理のない声で歌うことや二部合唱の良さを実感した児童が増えた。 ○合奏の中で音の重なるの良さを実感した児童が増えた。
図工	○発想・構想の能力の向上	○造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについての考えることができる授業の推進 ・発想が広がるような様々な参考作品を紹介する。 ・材料や道具などの使い方で、工夫できるところを確認する。 ・児童の作品を紹介し、考え方や発想の仕方を共有する。	○材料や道具を自分の表したいことに合わせて工夫して使おうとする姿が増えた。 △発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である。
体育	○「握力」	○日常的につかむ、にぎる運動を取り入れる授業の推進 ・握力や筋力を高めるために固定施設や鉄棒などの器具、遊具の活用をする。	○グループでの教え合い、気付きや振り返りを生かし、活動内容が深まった。 △腕立てや腹筋、背筋などの筋力を使う運動が弱い。筋力を高める運動を授業の中に計画的に取り入れる。

## 5年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○書く能力の向上	○相手を意識し、目的や意図に応じて、自分の考えを明確にして書く授業の推進 ・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。	○フローチャート等の思考ツールを活用し、文章の構成を工夫することができた。 △書く力は個人差が大きくなっている。語彙力を高めるために辞書の日常的活用を進める。
社会	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上	○社会的事象への関心・意欲・態度を高める授業の推進 ・現地見学の機会、ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。 ・地域の発展に尽くした人々や先人の働きを日常とつなげることで、理解を深めさせる。	○2・3学期にゲストティーチャーに小笠原での現状と課題をインタビューし、理解を深めた。 △資料から情報を選択する学習では、個別指導を行う。
算数	○数量についての技能	○数の表す意味や計算の仕方の理解を定着させる授業の推進 ・数の表し方のしぐみに着目して、数の相対的な大きさを考察させることで、数と式の表現や計算などに生かせるようにする。 ・数を構成する単位から、相等及び大小について考察させることで、数の意味や表現を多様に考えられる機会を増やす。	○児童の実態に応じた学級編成が行えたことで、一人一人のアセスメントから指導することができた。 △単元や児童によって理解度の差異が見られる。スキルタイム等で、個別指導を行う。
理科	○観察・実験の技能の向上	○観察・実験の技能を高める試行による実感を持った授業の推進 ・試行錯誤の体験を通して、児童が試行繰り返し、次第に見通しを立てて、技能に関する問題の解決策や方法を見いだす。 ・児童一人一人の技能の習得状況を見取るために、ペアやグループの中で一人ずつ観察・実験を行い、手順通りにすすめられたかについて、相互評価を行う。	○既習や日常体験から、実験計画を立て、学習の見通しをもつことができた。実験回数を増やし、問題解決力が高まった。 △授業の相互評価はできるようになった。単元を通して、学習をまとめる授業では、個別指導が必要である。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進 ・互いの演奏を聴き合う中で、重なり良さを実感させ、二部合唱の技能向上を図る。 ・歌唱・合奏活動を通して、学び合いの場の充実、主体的に表現活動を行い、技能の向上につなげる。	○自然で無理のない声や二部合唱の良さを実感した児童が増加した。 △表現活動に個別指導が必要である。
図工	○表現を工夫して深める力の向上	○様々な材料や用具の特徴を生かしながら主題を表す力を身に付けさせる授業の推進 ・様々な材料や用具を総合的に工夫して使えるような題材の設定を図る。 ・主題について導入やワークシートなどを工夫して、考えを深めることができるようにする。	○自分なりの考えや工夫を深めようとする姿勢が増えてきた。 △技能面については、個人差があるので個別指導が必要である。
体育	○運動への関心・意欲・態度の向上 ○動きを持続する能力を高める運動の向上	○各種の運動の楽しさや喜びを味わい、各自やグループの課題を見付け、その解決方法や活動を工夫する授業の推進 ・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。 ・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気付きを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。 ・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。	○年間を通して、学習ポイントのポートフォリオ化によって、既習を生かしたり、単元後にも自主的に学習に取り組んだり、学び方を身に付けることができた。また、ゲーム化を取り入れ、運動に親しむ児童が増えた。 △課題達成型の学習では、個人差が大きくなっている。個別指導が必要である。

6年生

	各教科の課題	具体的な授業改善策	改善の評価
国語	○言語についての知識・理解・技能の向上 漢字の定着	○言葉の特徴や使い方を身に付け、活用できる授業の推進 ・難意語等を国語辞典や漢和辞典を使って調べることで、言葉を正しく理解する。(語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。) ・漢字バッチリノートを活用し、家庭学習で漢字を練習する。 ・漢字小テストを実施し、100点合格を目指す。 (再テスト実施)	○どの学習にも振り返りの時間を設けることで、書く機会を増やすことができた。 ○自ら辞書を引こうとする機会が増えた。 △3・4・5・6年生の漢字・言葉の復習が必要である。
社会	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上	○社会的事象への関心・意欲・態度を高める授業の推進 ・ICTなどの機器を使い、歴史に関する話や実際の映像を見せることで、今の生活と深い関わりがあることに気付かせる。 ・歴史人物について調べ、レポートを作成する。(歴史人物事典) ・ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。	○社会的事象へ関心・意欲・態度が高まった。 ○児童が自ら現地見学の機会や学習計画をつくり、知識や思考力が高まった。
算数	○数量や図形についての技能	○計算力を高める授業の推進 ・公式の構成や導き出し方の学習を通して、公式の有用性を理解し、活用することができるようにする。 ・多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考えさせたり、学習したことを生活や学習にどのように活用できるか考えさせたりすることで、理解の定着を図る。	○ペア学習を取り入れることで思考を整理したり、自分の考えを伝えたりすることができるようになった。 △四則演算の技能、分数・小数などの基礎基本の理解を定着させる必要がある。
理科	○知識・理解の定着	○知識を意欲的に獲得し、表現できる授業の推進 ・理科に出てくる言葉を絵や図を用いて分かりやすく記録し、確認することで定着を図る。 ・全単元で実験の機会、観察の機会等の体験的学習を増やす。(実験の際には自分の考えをもち、ノートに記録する。)	○意欲的、主体的に学習に取り組む児童が増加し、知識や技能の定着を図ることができた。 △思考力の向上に向けて、個別指導が必要である。
音楽	○表現技能の向上	○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進 ・歌唱や合奏での互いの音色の重なりをの良さを実感させ、技能の向上を図る。 ・合唱・合奏活動を通して、学び合いの場の充実、主体的に表現活動を行い技能の向上につなげる。	○合唱や合奏の中で1人では味わえない音楽の良さを実感した児童が増えた。 △表現活動に個別指導が必要である。
図工	○表現を工夫して深める力の向上	○様々な材料や用具の特徴を生かしながら主題を表す力を身に付けさせる授業の推進 ・様々な材料や用具を総合的に工夫して使えるような題材の設定を図る。 ・主題について導入やワークシートなどを工夫して、考えを深めることができるようにする。	○課題についての導入やワークシートなどの工夫で考えや発想が深まった。 △基本的な技能が十分に身に付いていない児童が数名いる。
体育	○運動への関心・意欲・態度の向上等	○自分やグループの課題を解決するために、友達と声をかけ合って、楽しんで活動する授業の推進 ・互いにアドバイスをし合う機会を増やす。 ・みんなで楽しめるように、ゲームのルールを工夫する。 ・チームワークを大切にできるように、ゲーム前には、班での作戦の時間を十分に確保する。	○運動の楽しさや喜びを味わえる児童が増加した。グループでの交流、活動が増加し、主体的に学習に取り組む児童が増加した。 △技能の向上に向けて個別指導が必要である。